

けいはんな R&D イノベーションコンソーシアム

第3回総会 西尾会長ご挨拶 要旨

「けいはんな R&D コンソーシアム」の会長を務めさせて頂いております大阪大学の西尾でございます。平素は「けいはんな学研都市」に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。又本日はお忙しい中、けいはんな R&D イノベーションフォーラム第3回総会に、多数のご列席を賜り誠に有難うございます。

「けいはんな学研都市」は、30年の歴史の中で順調に成長を遂げ、域内人口 25 万人、立地施設数も 140 を超えるに至りました。情報通信分野に加え、バイオ、環境・エネルギー等、多様な分野での、研究開発・事業化が着実に進められつつあります。これらの多様な集積を更に活かし、従来の延長上に無い新たな産業や事業を創出すべく設立された本コンソーシアムも、お陰様で3年目を迎えることができました。現在、本コンソーシアムの会員数も、中核機関 2、企業 65 社、連携協力機関 9、大学有識者 13 名、合計 89 会員、昨年度より 20 会員の大幅な増加になっており、魅力ある活動としてご評価を頂いているという事と思っています。

昨年一年間、未来の事業・産業の創出という命題に向けた様々な活動をしてまいり、その成果として、Culture2.0 など新たなプロジェクトが誕生、この活動の成果として、本年5月に新商

品が発売されるに至っております。

また、皆さんご存知の通り、昨年9月より共同使用が可能な公道走行実証実験プラットフォーム「K-PEP: Keihanna Public road Experimental Platform」の提供がRDMM支援センターより開始され、この3月には、実質的運用が開始となり、オープニングセレモニーも開催され、報道機関にも取り上げられたところでもあります。K-PEPは、けいはんな学研都市の優れたインフラを活用した、正に、「けいはんな学研都市」ならではの実証実験プラットフォームであり、企業や大学、公的機関等がお互いに乗り合い、自由に研究開発が行える、初の乗合型の実証実験プラットフォームです。このプラットフォームは、未来の交通システムや必要となる技術を確立していくうえで不可欠なもので、イノベーション創出に、大いに期待するものであります。

更に海外組織とのグローバル連携も開始されており、少しずつではありますが皆様の活動の成果が出てきており、詳細につきましては後程、本総会の議案としてご説明申し上げたいと思います。何れに致しましても、我々がグローバルな視点で如何に世界に貢献できるか、未来の産業づくりという大きな命題に向け、異なる組織の連携に際しては、色々課題はあろうとは思いますが、この大きな目的に向けて、産学官が一体となって、共に歩んで行こうではありませんか。